

桜さく島

春のかはたれ

竹久夢二

青空文庫

暮れゆく春のかなしきは

歌ふをきけや爪弾の

「おもひきれとは死ねとの謎か

死ぬりや野山の土となる」

隅田川
すみだがは

「春信」の
はるのぶ

女の髪をすべりたる
をんなかみ

黄楊の小櫛か
つげ おぐし

月の影
つきかげ

「どうせ売られる身ぢやほどに
う

静かに漕やれ
しづ こぎ

勘太殿
かんだこの

ひとかひ
人買

あきひ
秋の日は

あかたんぼ
赤い蜻蛉のかはたれに

へいかげ
塀の蔭から青頭巾。

ひとかひ
やれ人買ぢや、人買ぢや

どこに
何処へ逃げようぞ、隠れようぞ。

あかたんぼ
赤い蜻蛉が飛びまわる。

御籤くじ

おも
思ひあまりて御籤みくじを引ひけば
なんとせうぞの凶けふと出でる。
いつそ打明うちあけ話はなさうか
ひとりで泣ないて済すまさうか。
えゝなんとせう川かは柳やなぎ。

すゞめ
雀の子

トコ ドンドコ ピイ ヒヤラヒヤア
 麦の上をば風が吹く。

やくしや
 役者の群にはぐれたる

こどもごころ
 子供心のはかなさは

……うちの浦のちさの木に

すゞめ
 雀が三羽とうまつて

はすゞめ
 一羽の雀がいふことにや

ござ
 ゆふべ御座つた花嫁御

なにかな
 何が悲しゆてお泣きやるぞ

な
 お泣きやるぞ……………

いま
 今のわが身につまされて

ほろりほろりと泣ないてゆく。

しろくすり
白い薬

きいふくろ
黄な袋のセメンエン
ねつした
熱ある舌にしみる時。
くらそら
暗い空から雪が降る。

こたつ　うへ　くろねこ
炬燵の上の黒猫の
あをみとみひかとき
青い瞳の光る時。
ひつぎ　やね　あめ　ふ
柩の屋根へ雨が降る。

まち
街の五月

……チン ツン くどけば なあびく

チツツン ツントン

あひおひ まあつ
相生の松……

くちさみせん あしびやうし
口三味線の足拍子

くうぎごうり やわら
空気草履の柔かさ。

かた はないろ
肩のうへでは花色の

ひがせ
日傘がまわる絵がまわる。

……またいついつもの約束の チンツン

ひ
日をまつ とき
時まつ くれ
暮をまあつ……

越後の山えちごやま

角兵衛獅子の悲しさは
 親が太鼓打ちや、子が踊る。
 股の下から峠を見れば
 もしや越後の山かと思ひ
 泣いてたもれなとも／＼に。

角兵衛獅子の身の辛さ
 輪廻はめぐる小車の
 蜻蛉がへりの日も暮れて
 旅籠をとるにも銭はなし
 逢の土山雨が降る。

夏なつのかはたれ

一ひや

二ふや

お駒こまさん。

煙草たばこの けむりは

丈ぢやうは八つあん……………

とんくとんとつく手鞆てまり。

白しろい指ゆびからはなれて見れど

未練みれんが残のこるといつたよに

やるせないよに往來ゆききする。

ゆらくゆれる伊達帯だておびから

江戸紫えどむらさきの日ひが暮くれる。

三みや

四よ
や
夕ゆふぎり
霧きり
さん
……
……
……

夢ゆめ

春はるの夜よの、夢ゆめのひと一つはかくなりき。

丹塗にぬりの欄らんの長廊わたどのに

散ちりくる花はなを舞まひ扇あほぎ

うけて笑ゑみたる「歌磨うたまろの

女をんな」の青あをき眉まゆを見みき。

冬ふゆの夜よの、夢ゆめ一つはかくなりき。

黒くろき頭巾づきんをかぶ

人ひと買がひの背せに泣ないじやくり

山やまの岬みさきをまわる時とき、

「廣重ひろしげの海うみ」ちらと見みき。

雪ゆきの降ふる日

雪ゆきの降ふる日ひは、駒鳥こまどりの
 紅あかい胸毛むなげのおどくと
 風かぜに吹ふかれるやるせなさ。

雪ゆきの降ふる日ひに、小雀こすずめは
 赤あかい木この実みが食たべたさに
 そつと見みに出でるいぢらしさ。

揺籃えうらんの記憶きおく

(ねんねしなされ。まだ日は高い
暮りやお寺の鐘かねがある。)

村むらのはづれにちらくするは
虫むしか蛸ほたるか人魂ひとたまか。

さうじやないく。母かさんの
点つけさしやんした雪洞ほんほりが
風かぜに吹ふれてゐるわいな。

(ねんねしなされ。まだ夜は夜中よなか
明あけりやお寺てらの鐘かねがある。)

山やまのうへをばふわく〜飛とぶは
鳥とりか獣けものか三みヶ月づきか。
さうじやない〜。母かさんの
小袖こそでに染そめた牡丹ぼたんの花はなが
雨あめに降ふられてゐるわいな。

文ふみ

雲くもに別わかれて野のに降おりし

雨あめのこゝろのやるせなさ
思おもひまゐらせ候そう※

空そらになげたる彩いろふみ文ふみは
森もりにかゝりし虹にじかいな。

芝居ごとしばゐごと

雪ゆきの降ふる夜よのかなしさに
あね姉この小袖こをそと被かつぎ

「……でんちうじや、はりひぢじや

島しまさん、紺こんさん、なかのりさん……」

踊おどりくたびれ「袖萩そではぎ」の

肩かたに小袖こをうちかけて

涙なみだながらの 芝居事しばゐごと

「寒さむかろうとて着きせまする」

このまあつもる雪ゆきわいの。

折鶴
をりづる

行灯あんどのかけにとつおいつ
娘むすめごころの羞はづかしや
何なんと答こたもしら紙かみの
膝ひざのうへにて鶴つるを折をる。

あをまど
青い窓

となり
隣のとなさん、何処へいた。

むか
向ふのお山へ花摘みに

つゆくさ
露草 つらく月見草。

えだお
一枝折れば、ぱつと散る

えだお
二枝折れば、ぱつと散る

えだ
三枝がさきに日が暮れて

ひがし
東の紺屋へ宿とろか、

みなみ
南の紺屋へ宿とろか。

ひがし
東の紺屋は赤い窓、

みなみ
南の紺屋は青い窓。

みなみ
南の紺屋へ宿とれば、

夜よ着ぎは短みぢかし夜よは長ながし。

うつらあをくとするうちに
青まじい窓から夜よがあけた。

青空文庫情報

底本：「桜咲く島 春のかはたれ」洛陽堂

1912（明治45）年2月24日発行

※近代デジタルライブラリー (<http://kindai.ndl.go.jp/>) で公開されている当該書籍画像に基づいて、作業しました。

※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の表記を新字にあらためました。

※文中の「…」は底本では1文字あたり4点ないしは5点の点線ですが、文字の幅に合わせた「…」で代用しました。

※歴史的仮名遣いから外れたものも、底本通り入力しました。

※促音「っ」の小書きの混在は底本のままとしました。

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号586）を、大振りにつくっています。

入力：土屋隆

校正：田中敬三

2005年8月22日作成

2010年11月1日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

桜さく島

春のかはたれ

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 竹久夢二

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>